

PFAS漏出認める

防衛省 横田基地 10～12年3件

*米軍横田基地周辺など東京都多摩地域の地下水や水道水から、難がん性や免疫抑制など健康影響が指摘される有機フッ素化合物(PFAS)が検出されている問題で、防衛省の担当者は29日、同基地で2010～12年にPFASの漏出が3件あった事実を公式に認めました。

泡消火剤「来秋までに交換」

共産党が聴取

防衛省はまた、泡消火剤について、PFOSやPFOAを含むOAを含まない物と交換中とし、「横田基地は24年9月までに交換完了予定」と述べました。参加者は「国分寺市では農年、地下水を飲んできただと求めました。住民の命を守ることに、真摯に向き合ってほしい」などと回答しました。

副議長・参院議員(衆院

日本共産党的国会・地方議員らが、PFASを含む泡消火剤の同基地での使用について防衛、外務、環境省から行つた聞き取りで各省から行つた聞き取りで明らかにしたもの。

防衛省は、「漏出量については「米側から確認が取れていない」と回答。20年にもかかれて漏出があったと報じられた」とどうしては、米側に確認中としまし加。多摩地域で自主点検検査すれば地下への浸透は十分考えられる。どう対応したか、防衛省と連携し事実関係を確認した」と述べました。

環境省は「一般的に、漏出すれば地中への浸透は十分な」と認めた。

内閣官房は「米軍は漏出の報告書を出しておらず、政府としても開示を求めるべきだ」と要求。汚染について



PFAS汚染と横田基地

防衛省・外務省・環境省のヒアリング

防衛省と環境省などから話を聞く日本共産党国会議員、地方議員ら=29日、参院議会館